

令和2年度 第2回小中一貫教育小規模校全国連絡協議会 議事録

令和2年12月14日 10:00 オンライン会議

参加者 京都大原学院 校長
まつのやま学園 学園長
まつのやま学園 副学園長
余呉小中学校 校長
田原小中学校 校長
宮島学園 校長
オブザーバー(京都大学)特任教授

1 あいさつ(会長)

今年はコロナ禍でできなかったことがたくさんあった。その中でも子どもたちのためにやりたいことはできた。行事の大切さがあらためて分かった 1 年であった。協議会として今年度の取組を協議会のホームページで発表していきたい。

2 学校の様子

(まつのやま学園)十日町市ではコロナ感染者は出ていない。2学期からは通常通り

まつのやま探究などは行えたが、収穫祭など、食べたり販売したりすることは控えた。米、野菜の栽培はできた。山菜採りはできなかった。修学旅行は1泊で佐渡島に行った。

(余呉小中学校)地域の祭、下丹生(しもにゅう)、上丹生(かみにゅう)の祭はでき

なかった。11月14日の市主催「長浜 祭と芸能」では発表ができた。よい体験だった。森林学習、自然とふれあう、余呉を楽しむプロジェクトは進められた。その中で「そらめちゃん」(キャラクター)を広めることができた。エコバック、ハンカチを自治会に買ってもらった。エコバック250個、ハンカチ220枚、お金は子どもたちがもらいにいく。そらめチャンネル(YouTube)、地元の特産物であるお茶を利用した「そらめちゃんクッキー」、余呉巡りスタンプラリーも実施できた。修学旅行は実施できなかった。来年、6・7年生で行く予定。9年生は卒業前に名古屋へ1泊で行く。

(田原小中学校)奈良市は小規模校も大規模校も同じ基準で行事の制限があった。奈良市61校で毎日2校ほどコロナ感染者が出ている。

学校では伝統芸能「祭文(さいもん)」、昔遊びは実施できた。修学旅行は看護師同伴で、片道4時間以内という条件で、6年は和歌山、9年は淡路島、徳島に行った。校外学習は明日香に行った。ふるさと科は来年度に取り組む。

(宮島学園)夏から人出が戻っている。広島県は感染者が100人を超えている。今年は宮島町70周年記念で、しまっ子というキャラクターが作られている。ふるさと学習は夏から地域の方に来ていただいて宮島踊り、おめでとう宮島70歳のイベントをしたが、参観は保護者2名限定にした。修

学旅行は9年が10月に下関の宗像大社に2泊で実施した。6年は大原学院の宮島への発見旅行に合わせて交流した。また、まつのやま学園とリモートで9年生同士の交流をする。各学年の地域学習、SDGsの学習を進める。今後、宮島の何を学ぶかを考えていく。

(京都大原学院)京都市は教育委員会から小規模校ならできるということで、本校では三千院学習などが実施できた。しかし、八朔踊りなどの祭は全く出来なかったので地域文化の継承については危惧している。大原ではコロナ感染者は出ていないが、地域の方が学校に来ることを遠慮されている。大原提言も例年なら三千院を借りてするのだが、今年は体育館になった。しかし、その結果、協議会の9年生にリモートで参加していただいたので感謝している。修学旅行は長崎に、発見旅行は広島に行き、平和学習をすることができた。収穫祭など食べたり、販売したりはできなかった。

(小松先生から)今年のコロナ禍の中で実践したこと、学んだことを新学習指導要領で言われている学習評価する。深い学びができたか、できなかったか、学びに向かう力にどう生かされたか、コロナ禍でどういった学びができたか検証する必要がある。

3 第6回小中一貫教育小規模校全国サミット in 長浜について

サミットは令和3年10月29日(金)に実施予定。夜に交流会を予定しているので、土日は長浜を観光していただければうれしい。

4 今後に向けて

①次年度の事務局・会長について

サミット開催地の学校が会長・事務局になるという提案が了承される。

令和3年余呉 → R4 宮島 → R5 田原 → R6 まつのやま → R7 大原

②次年度の取組

協議会校でオンラインを使って授業の交流、授業力を上げる取組をする。

(小松先生)指導力の向上、子ども同士の学習能力を上げることは全校にプラスになる。今、現場にいる教師だけでなく、今後教師になろうとする人にも紹介して、大学での学び、学生を育てるという先の見通しをもった持続可能な活動にしてほしい。そのために中長期のビジョンが必要。

今年度の取組を A4 用紙1~2 枚でまとめて、協議会のホームページにあげたい。そのために3月にもう一度 Zoom で会議をしたい。3月20日以降に実施予定。

5 その他

(小松先生)今後、教育委員会との関係が重要。予算編成のスケジュールを考える。

設置者である教育委員会に人事も理解してもらう必要がある。行政、議会にキーパーソンになる教員を配置してもらおう。また、現職教員の研修を着実にやっていく。授業の交流、実践をつなげていくことを進める。一人一人の教員が地域に合わせた教育を考えることが大切。

以上